令和６年度（2024 年度） 第４回南区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

１　日時　　令和７年（2025 年）２月 12 日（水） 午前 10 時～午後０時 10 分

２　場所　　南区役所 ３階大会議室

３　出席者　　計 36 名（出席者名簿のとおり）

〇南区まちづくり懇話会委員　16 名

柴田委員（会長）、正木委員、大川委員、西村委員、澤田委員、
立岡委員、北野委員、福田委員、中村委員、牛嶋委員、後藤委員、
松永委員、楠村委員、髙橋委員、高智穂委員、米村委員（代理）

〇事務局　20 名

南区長、区民部長、保健福祉部長、南区土木センター所長、
南区管内まちづくりセンター所長（６名）、福祉課長、保護課長、区民課長、
保健こども課長、総務企画課長、総務企画課職員（５名）

４　内容

（1）　開会
（2）　区長挨拶
（3）　令和６年度南区まちづくり推進事業に関する実績報告　資料１
（4）　令和７年度南区まちづくり推進事業計画について　資料２
（5）　意見交換 ・ 第６期南区まちづくり懇話会の振り返り
（6）　閉会

５　意見交換議事録

「令和６年度南区まちづくり推進事業に関する実績報告資料１」及び
「令和７年度南区まちづくり推進事業計画資料２」について

＜ 資料１及び資料２について 事務局から説明 ＞

（牛嶋 委員）

南部まちづくりセンターの「わがまちアイデアコンテスト」について。去年の計画段階から関心があり、子どもたちのアイデアに感銘を受けた。資料では、子どもたちから出たアイデアをまとめた小冊子を作って地域に共有するということだが、その先は地域に任せる形にするつもりなのか、行政でもう一歩踏み込んで支援していくのか。

（山本 南部まちづくりセンター所長）

まず、令和７年度は令和６年度の入賞作品の冊子を 1000 部ほど作り、各校区に共有したいと考えている。同時に、令和７年度も「わがまちアイデアコンテスト」を実施し、その入賞作品も共有を図ろうと考えている。この事業は、少なくとも令和 ８ 年度までは継続できればと考えており、令和 ８ 年度中には地域の方が主体となった事業につなげられないかと考えている。そして、令和 ９ 年度以降は、この事業の継続や、これまでのアイデアを活かしたまちづくりについて考えていこうと思っている。

（牛嶋 委員）

以前別の件で行政に相談した時もそうだが、「検討します。」と言われたきり動きがないことがあった。せっかくやる気のある子どもたちや地域住民がいるのだから、そういった人々を活かせるよう、関係団体との検討や協議をぜひ進めてほしい。

（柴田 会長）

この事業は何もまちセンや区役所だけでやる必要はなく、多くの関係団体の方々も（子どもたちのアイデアを）見られるようにしておけば、それを各自でやってもらえるかと。ちなみに、ホームページへの掲載はしてあるのか。

（山本 南部まちづくりセンター所長）

（入賞作品のアイデアは）南区のホームページに掲載している。

（髙橋 委員）

関連して、「わがまちアイデアコンテスト」の応募状況が、小学生 719 作品、中学生 7 作品ということで大きな開きがある。絵画と企画提案ということで難易度の違いはあるが、周知方法の違いなどはあったのか。来年度も継続するのであれば作品数の底上げなどのアイデアはあるのか。

（山本 南部まちづくりセンター所長）

広報の方法は同じであった。原因はテーマが難しかったことだと分析している。中学校や PTA と合同で行った企画段階から、中学生のテーマは難しいのではないかとご指摘はあったが、初めての試みということでまずはやってみようということになった。来年度は、もっとテーマをわかりやすくしようと検討中である。

（髙橋 委員）

非常に良い取り組みだと思うので、地域住民に広く周知し、活用するところもぜひ検討してほしい。自分の出したアイデアが実現するとなれば、（アイデアを出した）子どもたちにも１つのインセンティブになると思う。

（高智穂 委員）

子どもたちからもらったアイデアだが、少し手直しして事業案を作り、予算を取り、参画してくれる自治体や地域団体を募る。行政はその間に入ってつなぎ役や補助をする。そういった動きをしてもらえると双方の負担も減るのではないか。また、そういった動きを子どもたちにうまく伝えられれば、それだけでキャリア教育にもなるのではないか。

（山本　南部まちづくりセンター所長）
子どもたちのアイデアをもとに、地域の方々が主体となって動けるような事業ができるよう取り組んでいきたい。小学生の絵画に関しては、この絵をすぐにまちづくりに活かすというのがなかなか難しいというのが課題だと分析している。中学生のテーマとしては、「地域の担い手を増やすために、様々な世代が自主的にまちづくりに関わるためのアイデア」などのテーマで検討を進めているところである。

（柴田　会長）
仮に、子どもたちのアイデアをもとに「この事業をやろう！」と地域が盛り上がった場合、資料にある「地域緊急課題対応費」を使うことができるのか。このお金はそういう使い方という認識で合っているのか。

（本田　区長）
おっしゃる通り、その予算で対応できるものは対応していく。また、この事業が南部まちセンだけでなく南区全体に広がっていってほしいと思っている。
また、高智穂委員のご指摘に関しては、行政に欠けがちな視点であるので、（行政が補助などをして、地域に返すことも）検討していきたい。

（高智穂　委員）
コミュニティづくり支援補助金も使えるのか。

（本田　区長）
申請があれば審査をし、それが地域活動を推進するものと判断されれば採用できる。

（柴田　会長）
子どもたちが描いた絵は結構重要だと思う。この絵はもう返却してあるのか。

（山本　南部まちづくりセンター所長）
現在は南部まちづくりセンターで預かっている。

（柴田　会長）
今後はどうするのか、返却するのか。大学的な観点からいくと、この絵を分析すると、子どもたちがこんなものを見ているということがわかり、非常に面白いデータになると思う。

（牛嶋 委員）
　絵の活用方法について、例えば「精霊流し」の絵があったとすれば、それを実施するためにかかるお金や人で、必要な作業などを示してあげて、ごみ拾いや片づけなどできることから参加してもらうなどすれば活用できるのではないかと思う。

（高智穂 委員）
　例えば、子どもたちの絵を絵はがきにしてセット販売して、その収益をまちづくり費用として活かすなどできれば、子どもたちとしても「絵を描いただけでまちづくりに関われるのか」と、まちづくりに参画するモデルになるのではないか。

（柴田 会長）
　そういった小さなビジネスにすると、子どもたちにとっても勉強になると思う。

（本田 区長）
　絵画に関しては、環境の方でも今年度から始めた。絵を活かしたビジネスに関しては、募集時にそのことを周知したうえで応募してもらえば可能ではないかと思う。今日のご意見もどんどん活かしていきたい。

（髙橋 委員）
　もしそういった絵はがきなどが実現するのであれば、南区のキャラクターも一緒に載せれば、南区の認知度向上にもつながるのではないか。加えて、南区のキャラクターのライセンスがフリーになるような話について補足説明を事務局からいただきたい。

（高畠 主幹）
　キャラクターの使用に関して、販売目的等はお断りするが、地域イベントのデザインなどで使いたい場合などは、南区に申請いただければ許可することができるので、ぜひ申請いただければ。

（正木 副会長）
　農業の観点から、毎年実施されている「地域資源活用事業」について。農業人口の高齢化が進んでいる中で、このような食と農をつなぐイベントや体験活動が非常に大切になってくる。特に南区は農業が盛んな区であるので、こういった事業を繰り返し、積み重ねていってほしい。

（北野 委員）
　今年度新規事業の「南区管内子育てネットワーク応援事業」について。子育て支援ネットワークと PTA との合同研修会ということで、演劇の鑑賞会を実施した際に、その講師料として助成金を使うことができて非常に助かった。
　また、「わがまちアイデアコンテスト」について、以前小学校 6 年生が学習発表会で同じような

内容を扱っており、まちセンの方に相談しながらではあったが、立派な内容を発表していた。小学生は絵画のみとしてしまわずとも、高学年であればアイデア部門も可能ではないかと思う。

（馬原　保健こども課長）
「子育て支援ネットワーク応援事業」は、今年度 4 回実施し、3 年をスパンとして考えている。研修会のテーマを決めてもらえれば、専門の講師を派遣することやその助成をすることも可能なので、ぜひ活用いただければと思う。

（柴田　会長）
「終末期医療に関する啓発事業」について、看取り支援・看取りケアということが書いてあるが、具体的な内容を教えてほしい。

（松永　福祉課長）
高齢者施設や終末期施設にて、施設職員の方に看取りの経験がないという意見が多かったので、看取り経験のある看護師や、がんに特化した看護師などを施設へ派遣し、施設職員のスキルアップをはかる研修会を実施した。

（後藤　委員）
防災に関して、先日行われた地域のグラウンドゴルフ大会で、参加賞としてアルファ米が配布された。保存食のアルファ米で賞味期限が 5 年間だが、配付されたものは消費期限が残り 6 か月だった。このように、消費期限が近くなった保存食はどのようにされているのか。
また、各地域に自主防災クラブがあるが、これはどういった活動をしているのか。余った保存食なども自主防災クラブに渡してアクションを起こしてもらうことはできないのか。

（松山　主査）
保存食に関して、本市では防災倉庫や分散備蓄倉庫に 5 年分の保存食を保存しており、毎年 1 年分ずつを入れ替えております。その際に出た期限が短くなったものに関しては、試食ということも兼ねて地域に配っている。
自主防災クラブに関しては、各校区で行われています校区防災連絡会に参加して頂いたり、避難所の運営をお願いしたり、地域住民を避難所まで避難させる際のお手伝いをしていただいたりしている。しかしこれも、自治会長が変わるタイミングなどでゼロに戻ってしまうことが多いため、改善策を考えていく必要があると認識している。

（牛嶋　委員）
保存食を入れ替える際に廃棄するということだが、数としてはどのくらいあるのか。

（松山　主査）
南区役所のそばの備蓄倉庫であれば、アルファ米が 1000 食ある。（小学校などにある）分

散備蓄倉庫になると、調べてみないとわからない。熊本地震の経験から、１１ 万人の避難者の ３日分を賄えるよう市内全体で備蓄している。その他、白がゆ、長期保存パン、ミルク、水などが保存してある。

（牛嶋 委員）
　子ども食堂も運営で困っているところがあるので、廃棄する予定の保存食はそちらにも回してもらえると非常に助かるのではないか。

（松山 主査）
　現在も子ども食堂などの地域の団体に関しては、まちセンを通じて現在も配布を行っている。

（中村 委員）
　防災に関連して、先日南区の防災研修会に参加した。その中でやはり女性の防災士の少なさを感じた。女性ならではの視点や、子育ての視点は避難所運営にも欠かせないものだと思うので、女性の防災士を増やすための手立てを全市的に講じていく必要がある。いろいろな職業の方が防災士として活躍しているので、それぞれの方の専門分野を活かして避難所運営をするような取組ができないかと考えている。提案としては、市内の女性の防災士の意見交流会などがあったらいいと思う。

（松山 主査）
　２ 月 １ 日に、校区防災連絡会と防災士とをつなぐことを目的として南区防災研修会を実施した。その中でも確かに女性の防災士の少なさを感じた。仕事や子育てなどで忙しいという声もあったが、避難所運営において女性の視点は欠かせないものだと思うので、女性の防災士の研修会や交流会などを行って、女性の防災士を増やす取組をしていきたいと思っている。

（柴田 会長）
　次に、来年度事業計画の中に「こうだ☆ランド」のことがあるので、福田さんからもお話を頂きたい。

（福田 委員）
　「こうだ☆ランド」は、現在おやじの会で運営しているが、みなさんの意見を聞きながら、地域の方々や子どもたちにも参画してもらうような提案も必要だと感じている。そもそもおやじの会というものは、地域活動に参画するきっかけ作りの側面があり、その後は地域の自治会活動などにつなげてほしいという思いがある。しかし、実際は今回の「こうだ☆ランド」の運営に関して自治会に資金面で協力を依頼したが、なかなかうまくはいかなかったところがある。各地域団体と自治会との垣根をなくしていくため、協力して何かに取り組む活動が必要だと感じている。

（柴田 会長）

併せて、城南ワンダホーについて松永さんからお話を頂きたい。

（松永　委員）
城南ワンダホーの活動は順調に行うことができている。地域の特産品を使った商品開発、婚活、雁回山の登山イベントなど多岐に渡った活動ができている。
消防団に所属している身として、防災に関して１点。先日、地域防災充実強化大会 2025in 熊本というものに参加して、防災グッズとして筋力を補うためのマッスルベルトがいいのではないかといった話や、被災時に大切な人と人とのつながりを強化していくことが大切だといった話が印象に残っている。
最後に、天明まちづくりセンターの e スポーツに関して、対象や実際にやっているソフト、内容などを具体的に教えてほしい。

（藤本　天明まちづくりセンター所長）
子どもも大人（高齢者）も対象で行っている。毎回やっているのは「ぷよぷよ」と「太鼓の達人」で、「太鼓の達人」をする際は、実際の太鼓型のコントローラーを使用している。

（柴田　会長）
最後に、第６期委員の活動を振り返って、全員に一言ずついただきたい。

（正木　副会長）
４期８年間務めたが、南区は広く、まだまだ知らないことがたくさんあった。そんな中、懇話会の中で南区を巡る視察ができ、新たな発見ができた。

（大川　委員）
文化の面で問題となっているのは、部活動の指導者や予算などのこと、大人の文化活動の参加者が減っている、多忙になっていることなど。今日の話し合いのように、解決するために思いついたことはどんどん意見をして、文化活動がつながっていくようにしていきたい。

（西村　委員）
今年度、天明水の会で行った「緑川沿いの流域のつなぐ座談会」にて、行政と子どもたちがつながることの有益性を実感した。現時点でも、各地域団体、行政、それぞれが一生懸命頑張っている。しかし、それが互いにつながらなかったり、継承されなかったりすると、またゼロに戻ってしまうということが起きる。そうならないように、今後は行政と地域とが協力をして、つながっていくスキームのようなものを作っていく必要があると感じる。

（澤田　委員）
私は２期４年間こちらに参加した。区役所の仕事はこんなにも多岐に渡っているのかと思って聞いていた。区役所、地域それぞれの活動で、コロナを機になくなったものや形が変わったも

のがある。それらを見直しつつ、最適な形を模索していければいいと思う。

（米村 委員）

ささえりあからは 2 点、まずは介護予防について、各地域でサロン活動が活発に行われているが、どうしても地域の老人会など特定の方々に負担がかかっている状況がある。これをこどもたちとも結びつけて、次のステップへつなげていきたいと思っている。

次に、終末期の看取りについて。南区は「人生会議」なども実施して、看取りについては力を入れている。対象は施設だけではないので、もっと広く周知して、多くの方に参加して頂ければと思っている。

（立岡 委員）

２年間多くのことを学ばせていただいた。障がいという分野で参加をしており、なかなかまちづくり事業に直接関わることが難しく、教わるばかりであった。南区にも、障がいをもっていたり、何か生きづらさを感じていたりする人が多くいらっしゃる。そういった方々が、南区の事業を通して地域の人々とつながっていけるといいと思っている。

（北野 委員）

私も１期２年間参加させていただいた。委員の皆さんの様々な観点からのお話を聞いているうちに、自分の視察先でのものの見方も変わってきた。天草に視察に行った際に、図書館や包括支援センター、不登校支援のフロアなどが一体になった複合施設があり、非常に魅力的に感じた。新しく建てるとかなりお金もかかるが、廃校になった学校の利活用などで、南区にもぜひそういったこどもから大人まで関わる施設があればいいと思う。

（福田 委員）

２年間子育ての分野で参加させていただいた。現在は中学校で PTA の役員などを務めている。小中学校もコロナ禍でなかなか活動ができず、昨年度辺りから少しずつ活動ができるようになってきた。しかし、教員の働き方改革などもあり、止まっていた行事などの必要性が改めて問われるようになっている。地域行事にも関わっていて、海外実習生をどんどやに招待して交流活動も行った。今後も継続して学ばせていただきたいと思っている。

（松永 委員）

２年間なかなか出席できなかったが、大変勉強させていただいた。

これから「農業」や「食」が非常に大切になってくると思っている。農業人口は年々減ってきており、農業従事者の高齢化も進んでいることで、後継者不足が懸念されている。10 年後、20 年後の農業の存続を危惧しているので、懇話会の中でも、これから先農業について考えていただければと思っている。

（中村 委員）

防災士として 2 年間参加させていただいた。地域で活動していく中で、人とのつながりを増やしていくことは非常に大切だと思っており、この懇話会を通して、いろいろな方や行政の方々とのつながりができたことがありがたかった。

（牛嶋 委員）

2 年間お世話になりました。懇話会の中で委員の皆さんが様々な意見を出されている中で、私たちの提言が何かの役に立ったのかどうかイマイチ見えてこない部分があった。地域も行政も、まずは今やれることをやってみるという姿勢が大事なのではないかと思った。地域も行政も何かあればすぐに動き出す、そんな関係性になっていければいいと思う。

（後藤 委員）

2 年前に初めて懇話会に参加して、最初は不安でいっぱいだった。参加する中では、自らの視野の狭さを実感した。自分はどちらかというと現場や地域の声を伝える形で参加していた。たとえば公共交通に関して、都市部から離れたところに住んでいて免許を返納された高齢者など、いわゆる「弱者」というような方が南区にも多くいる。都市部はかなり便利になってきたが、田舎の方はまだまだ不便なので、そういうところに目を向けていただければと思っている。

（高智穂 委員）

有識者という分野で参加させていただいた。私からは 3 点お伝えしたい。

まず 1 つ目が、今日も話題に挙がった「防災のおける女性の視点」の重要性について。これは今すごく必要だと言われている。その一方で、女性で防災士の資格を持っていても、家庭や仕事が忙しくてなかなか活動できない、参加しづらいなどの声がある。まずは、男性と女性の視点の共有ができればいいなと思っている。

2 つ目は、富合まちセンのクリスマスイルミネーション連携事業について。地域住民が多く集まり、暗闇の中に明かりが灯る素敵な雰囲気の中で、防災に関する取組も組み合わせてみたらどうだろうか。

3 つ目に、事業やイベント情報の発信について。せっかく各担当で様々な考えのもと事業を行っているのであれば、発信方法や文言なども工夫して、もっと発信力を高めていくといいのではないかと思う。

（楠村 委員）

公募委員として参加させていただき、現場の本音や課題、悩みなどを直接聞くことができ、地域や行政を身近に感じることができた。これからまず自分にできることは参加することかなと感じた。加えてもう 1 つ、埼玉での痛ましい陥没事故に関連して、南区内でも道路陥没などの情報があれば区民に向けて発信をお願いしたい。

（髙橋 委員）

同じく一般公募で、3 期 6 年務めさせていただいた。今期は、まちづくりビジョンの検証や新た

なまちづくりの取組方針の作成など変化が大きかった 2 年間だった。その中でも、取組方針の中に「事業者」という言葉が入ったことが嬉しい。これからは、自治会や PTA といった団体だけでは地域が成り立たなくなっていくことが予想される中で、それを補うために地域の企業や団体を加える、連携を強めていくことで南区がさらに発展していくことを願っている。

今後は、懇話会を起点にして何かプロジェクトができればと思っている。

（柴田 会長）

皆さん高い参加率で毎回活発な意見をありがとうございました。市の規定で上限は 8 年間なので、継続ができる方はぜひ継続して頂いて、流れをつないでいってほしい。これまでの懇話会でも、たからものマップやまち歩きマップの作成など、多くのことを懇話会発で行ってきた。来期以降もぜひそういったことが懇話会を起点に行われていくことを願っている。

また、今期限りで委員を辞められる方も、歴代懇話会委員を招いての意見交換などの機会があれば積極的に参加してほしい。8 年間ありがとうございました。